

【学生による ESD 学習支援活動】  
あつまれ ECO キッズ！ 支援報告書

国語科教育専修 1 回生 西田朱音

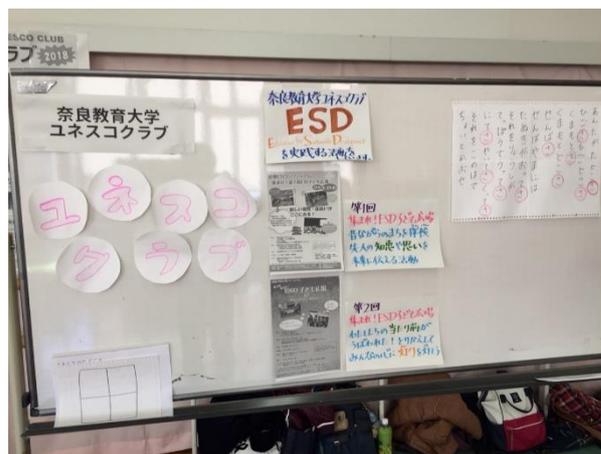
1. 日時 平成 31 年 1 月 13 日（日）11:00～15:00
2. 場所 ならまちセンター
3. 参加者 谷垣徹（大学院生）  
山本健太、足立繁郁、西條秀哉、桑田祐香、西田朱音（学部生）
4. 活動支援内容

ならまちセンターにおいて、あつまれ ECO キッズ！が行われた。本活動では、参加した子どもたちに人と人々が触れ合う、体を使った遊びを行った。

今回の活動を次の 2 点より振り返りたい。1 つ目はユネスコクラブやユネスコに関する知識の不足についてであり、2 つ目は事前準備の甘さについてである。

1 つ目のユネスコクラブやユネスコに関する知識の不足についてである。今回活動する中で、親子での参加者やまた途中で取材に来られた FM の方に、ユネスコクラブやユネスコ活動について説明する機会があった。活動紹介に関しては自分がしてきたことをお話しすることができたが、「ユネスコスクールとは」や「ESD とは何か、どう実践できるのか、それがどう作用しているのか」といった質問には、私は自信をもって答えることができなかった。これはひとえに勉強不足であるので、これから勉強して理解を深めたいうえで発信できるようにならない。

2 つ目の事前準備の甘さについてである。今回は多くの準備不足がみられた。例えばホワイトボードが借りられるからマーカーで歌詞などは書けば良いと思っていたが借用物品の中にマーカーは含まれていなかった。また、参加者が少ない場合、一人でもできるような遊びや親子のできる遊びを準備しておく必要があることに気が付いた。今回は、折り紙を使って人が集まるまで時間をつなぐことはできた



ユネスコクラブの活動紹介



みんなで協力して知恵の輪をほどく様子

が、これでは ECO という趣旨や体を使って人と人とが触れ合う遊びをするということからは離れてしまっている。様々な場面を想定すること、きちんとリハーサルをやるが必要だったように思う。

以上 2 点について、今回の支援で感じることができた。まだ来年度開催するかどうかは未定だが、次の機会ではこれらの課題を克服する必要がある。また本活動に限らずどんな活動でも細かな物品確認や会場についての情報収集は怠らないようにしたい。